H27　菅野由美子②

当協会における10年間の乳がん検診とデジタル検診車の導入

○菅野由美子、丹野香織、松井志穂、
玉根香織、林王明美、亀山欣之

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】

当協会では、平成12年より検診車を利用したマンモグラフィ検診を開始した。

今回平成16年度から平成26年度までの10年間に実施した検診結果をもとに実施件数、要精検率、精検受診率について検討したので報告し、併せて平成27年度より導入したデジタル撮影装置の運用についても言及する。

【現状と課題】

総受診者数は、平成16年度が約9,000人あったのに対し、委託市町村が増加した平成25年度には18,914人と約2倍になった。この間、

平成21年度からは、クーポン券の利用が開始されたので、これが受診率増加の一因をなしていると思われた。平成16年度のがん発見数は21人、発見率は0.17%であったが、平成25年度のがん発見数は36人、発見率は0.19%にまで増加していた。また、要精検率は、平成16年度が8.45%であったのに対し、平成25年度は3.79%であった。精検受診率は、平成16年度が89.7%であったのに対し、平成25年度は87.2%とやや低くなっていたが、依然80%台の高い受診率を維持していた。年齢別要精検率及び精検受診率をみてみると、若年層の要精検率が高くなったのに、精検受診率は低くなった。年齢層でみると、高年齢になるほど要精検率が低くなり、精検受診率が高くなる傾向であった。陽性反応的中度は加齢と共に上昇する傾向がみられた。これは全国的傾向であり、若年層の受診率をいかに上げるかが今後の課題になると考える。

【まとめ】

H27　菅野由美子②

近年、タレントの乳がん罹患体験の報道や乳がん検診への啓発活動がメディアを通して流される機会が多くなったためか、乳がん検診への意識は高まってきている。マンモグラフィ撮影に際しては乳房を圧迫するので、ある程度の痛みは伴うが、乳がん早期発見のため検診を受けることの重要性を訴え、検診を受けて良かったという満足感を発信していくことが、未受診者への受診干渉につながるものと考える。

平成27年度より車載装置がアナログからデジタル機器へと移行した。それに伴って撮影装置だけではなく画像サーバーやマッチングシステム、読影システムなどの環境も大きく変った。デジタル化のメリットは、低被曝で高画質の画像が得られることにある。さらに、読影モニターも5メガを使用することで陽性反応的中度もさらに上昇すると考えている。